

「経絡」と「五臓六腑」とは？

繋がり合う経絡と臓腑

今回のテーマは、「経絡（けいらく）」

人の体表には、360以上のつぼ（経穴）が存在し、複数の経絡が存在しています。

つぼ（経穴）と経絡を説明する時、「つぼ（経穴）が駅で、経絡が線路です」とよく例えられます。そして、線路（経絡）と線路（経絡）は繋がり合い、連絡し合っています。

東京や大阪などの大都市の電車や地下鉄の路線図をイメージされるとわかりやすいかもしれません。

ところで、「五臓六腑（ごそうろっぷ）」にしてみわたる」なんて言葉を聞いたことありませんか？

暑い日に冷たいビールを飲んだ時、寒い日に熱燗を飲んだ時、体の中にじわーっとしみわたる感覚を表現する時に使ったりします。昭和のおじさんは使いますが、若い人は使わないかな。（苦笑）

「五臓六腑」とは、5つの臓と6つの腑のことです。体表にある経絡は、体内にある「臓腑（そうふ）」というものにも繋がっています。

れんめんと

古今東西かけはしコラム

5月号

2024.05
vol.2

【文責】

今井輝善

（鍼灸絃有堂）

「臓腑」と聞くと、現代医学の内臓と同じなのかと思われるかもしれませんが、同じではありません。

東洋医学でいうところの「臓腑」とは、それぞれに魂の主座としての働きと生理作用をもっていると考えられています。

「臓」とは、一般に、「肝（かん）・心（しん）・脾（ひ）・肺（はい）・腎（じん）」の五臓（ごそう）をいい、これに「心包絡（しんぼうらく）」を加えることもあります。

「腑」とは、「胆（たん）・小腸（しょうちよう）・胃（い）・大腸（だいちよう）・膀胱（ぼうこう）・三焦（さんしょう）」の六腑（ろっふ）です。

経絡——始まりはお腹から——

さて、経絡には、肺経とか、大腸経とか臓腑にちなんだ名前がついています。そもそも経絡の始まりはどこかというと、お腹です。

お腹から起こり、大腸や胃、肺を通して体表に出できます。そして、胸や腕を通して、親指まで伸びています。これが肺経といわれる経絡。そして、次の経絡である大腸経は、人差し指から始まります。

さらっと書きましたが、親指から人差し指に経絡が繋がっているとは思議だと感じませんか？

親指と人差し指で、〇マークを作れば、物理的に経絡同士繋がりますが、そんなことしなくても繋がっているのです。つまり、ここで重要なのは、親指と人差し指の「空間」にも経絡が存在するということです。

立体・空間・宇宙論的な 鍼灸臨床の世界

「経絡の立体的、空間的、宇宙論的な繋がりのあるもの」と思って臨床に活用しています。

鍼灸師の大先輩 和友堂の一ノ瀬宏先生が仰っておられました。その言葉を聴いて、私は、鍼灸って奥深くてワクワクするなあと感じたのを思い出します。

物事に対する理解や認識は、自分自身がどう捉えるか？どう考えるか？によって大きく変わります。往々にして、これはこういうものだと思ってしまうと思考停止に陥りがちです。

二千年前に中国で体系化された経絡経穴という概念。つぼと経絡を電車の路線図のように、わかりやすく理解するだけに留まらず、まだ見ぬ無限の可能性があることを念頭において、鍼灸臨床に向き合い、臨床力を身に付けていきたいと思っております。